

#### ホ 本潟原におけるシラヒゲウニの主要餌料藻

胃内容物について、8月～2月間の調査の結果を第8表に示した。スガモ地帯に生息するウニの摂餌草は90%以上がスガモである。大型藻の全くない砂礫帯や岩場においてはわずかにイトクズグサやアオノリなどの微細藻や、他に泥砂がみられる。本潟原における主なる大型藻を多い方からあげると、スガモを含むアジモ類、ヒトエグサ、ウミウチワである。その中で、シラヒゲウニの量的にも質的にも有効な餌となっているものはスガモであろう。しかしながら本潟原におけるスガモ帯は潮干帯の中にあり、大部分のウニの生息する上限を越える高所にある。したがってこれらスガモはシラヒゲウニの食草として効率的に利用されていないと考えられる。因みに、スガモ地帯に生息しているウニはスガモを飽食しているが、スガモのない砂礫帯のウニは、胃内容物の有機物量をみるとスガモ帯のそれに比して、半分であり、他の半分は砂質を取り込んでいた。(第9表参照)これらのことからスガモの有効性が強調される。

しかしながら、バフンウニとエゾバフンウニの餌料藻についての知見からすれば、スガモやアオサ等の green sea weed は、コンブなどの褐藻にくらべて、有効な餌料ではないとされている。この点からも、シラヒゲウニの食藻について、年間のパターンを明らかにするためにさらに調査をすすめたい。

#### 参考文献

- (1) 内海富士夫 日本動物図鑑(下) 8 北隆館 昭42
- (2) 川村 一広 北海道におけるウニ移殖の現状と問題点, 水産増殖臨時号 1965.9.
- (3) 角田 他弘 人工採苗バフンウニの成長について, 水産増殖 Vol. 17. No 3
- (4) 菊地 泰二 海中植物群落と底生動物との結びつき, Benthos research No 1
- (5) 富士 昭 ウニ類の生物学的研究 一v1
- 川村 一広 エゾバフンウニの生活場所と地域分布, 日水誌 36(7)
- (6) " ウニ類の生物学的研究 VIII, エゾバフンウニ個体群の生物経済.  
日水誌 36(8)